慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	歌詞における都市表象のテキストマイニング
Sub Title	
Author	小田中, 悠(Odanaka, Yū) 谷, 公太(Tani, Kōta) 吉川, 侑輝(Yoshikawa, Yūki)
Publisher	三田社会学会
Publication year	2022
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.27 (2022. 7) ,p.114- 116
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大会報告要旨 : 2020年
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20220702-0114

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

歌詞における都市表象のテキストマイニング

小田中 悠、谷 公太、吉川 侑輝

社会学が対象とするようなことがらを知るためのデータの一つに歌詞がある。代表的な研究として、見田宗介（1967）は、1868～1963 年の流行歌を分析することを通して、歌詞にあらわれる、経験についての「紋切り型の表現」から社会意識の通時的変化を探ろうとしている。とりわけ論じられていることの一つは、都市に生きる、ふるさとから上京してきた人々が抱く孤独感である。

歌詞研究の歴史は古く、20 世紀の半ばからトップソングを対象とした分析が行われている（見田 1967）。歌詞の古典的内容分析においては 1 曲単位での分析が行われていたが（Peatman 1944; Horton 1957; Carey 1969; Cole 1971 など）、現在では、歌詞集合全体における語の出現頻度の分析も行われている（左古 2015 など）。

本報告では、見田と同様に、ある歌詞集合全体の中から、人々が何かを表現／経験する様式を探ることを試みた。その際、流行歌にこだわらず、都市に関わる語に注目し、歌詞を収集することとした。これは、現代においてはトップソングが社会を語ると考えることが難しいからである（左古 2015）。

分析に使用したデータは、歌詞検索サイト「うたテン」から、2020 年 3～6 月に収集した。対象は、「都会」、「都市」、「東京」、「大阪」のいずれかを含むものとし、他の 3 つと比べて、掲載数が少ない「都市」のみを含む曲を除外した、5796 曲を分析に使用した。

分析には、語の意味を捉える手法である、word2vec を用いた（Mikolov et al. 2013a）。機械・深層学習を用いたテキストデータの分析手法の中には、社会学における意味の問題と関連するものがあるとされており、word2vec はそのうちの 1 つである（瀧川 2018; 小田中・中井 2019）。word2vec の基本的な発想は、（1）ある語と類似した意味を有する語を量的に分析しようとすること、そして、（2）語の特徴をベクトルによって表現することにある。（1）については、ある単語の周辺語に注目し、使われ方の類似性を推定していく。また、（2）について、そのような特徴を有することで、語同士の四則演算が可能になる。たとえば、「王」−「男」+「女」≒「女王」という例がしばしば挙げられる（Mikolov et al. 2013b）。すなわち、王から男という性別の要素が引かれた結果、王族の最高位という要素が残り、そこに女という性別の要素が足されると女性の最高位である女王となるのである。

Python の janome と gensim を用いた分析の結果、第 1 に、「東京」、「大阪」、「都会」と類似する語として、たとえば、次のようなものが抽出された。すなわち、東京とは「街」や「都会」、

小田中悠、谷公太、吉川侑輝「歌詞における都市表象のテキストマイニング」 『三田社会学』第 27 号（2022 年 7 月）113-115 頁

大阪とは「東京」や「御堂筋」、都会とは「東京」や「街」などが類似していると推計された。第 2 に、各都市の固有性を抽出するため、「東京」−「都会」、「大阪」−「都会」という語同士の演算の結果、以下のような特徴が推計された。すなわち、「東京」−「都会」の主な類似語が地名であり、「大阪」−「都会」には「おもろい」、「グリコ」といった語があった。また、都市間の比較として、「東京」−「大阪」という演算を行なったところ、東京にはあって大阪にはないものとして、「街」、「見える」、「見上げる」といった語が析出された。

以上のような抽出された類似語は、見田が「心情のシンボルの体系」と呼んだような（e.g. 雨＝憂うつ）、東京などの語と結びつく動作、対象、感情を表しているといえる（見田 1967）。また、語同士の引き算を行った結果は、引かれる語にはあって、引く語にはない特徴を推計したものといえる。

そのように考えるならば、歌詞における大阪には「おもろい」という大阪という場所と結びついている感情が表れているのに対して、東京には固有の特徴はなく、都会らしさという抽象的・一般的な象徴性のみを保っている可能性があるといえる。これは 2000 年以降の都市論における議論（北田 [2002] 2011; 近森・工藤 2013）と軌を一にしたものだと考えられる。

しかし、それと同時に、「東京」−「大阪」の結果は、大阪にはなくて東京にはある特徴として、「見上げる」という動作との結びつきがあることを示唆している。「見上げる」に注目して歌詞を見ると、それは、たとえば、失恋後に相手を想う、都会への疲れや故郷への想い、あるいは、将来への希望などを象徴していた。

そして、都市論において、「見上げる」に注目することには、M. de Certeau（1980=2021）的な都市論を展開できる可能性がある。彼は、都市における経験を論じる際に、高所から都市を見下ろす視線と、歩行者による目線との対比を行っている。ここで、都市の中での「見上げる」という実践に注目することは、このような二項対立図式を再考する契機になるのではないかと思われる。

以上のように、本報告では、都市に関する語を含んだ歌詞の分析が、既存の都市論と親和的な東京像を示すこと、そして、都市における「見上げる」ことへの着目が、de Certeau 的な都市論を展開しうることを示した。今後は、「見上げる」に焦点を当てた歌詞の分析を進め、都市論との関連についてより詳細に考察することが望まれる。

【文献】

Carey, J. T., 1969, “Changing Courtship Patterns in the Popular Song.” *American Journal of Sociology*, 74(6): 720-31.

近森高明・工藤保則, 2013,『無印都市の社会学：どこにでもある日常空間をフィールドワークする』法律文化社.

Cole, R. R., 1971, “Top Songs in the Sixties: A Content Analysis of Popular Lyrics.” *American Behavioral Scientist*, 14(3): 389-400.

de Certeau, M., 1980, *l'invention du Quotidien, I: Arts de Faire*, Paris: Union Generale d'Editions. （山田登世子訳, 2021,『日常的実践のポイエティーク』筑摩書房.）

Horton, D., 1957, "The Dialogue of Courtship in Popular Songs." *American Journal of Sociology*, 62(6): 569-78.

北田暁大, [2002]2011,『広告都市・東京：その誕生と死（増補版）』筑摩書房.

Mikolov, T., K. Chen, G. Corrado & J. Dean, 2013a, "Efficient Estimation of Word Representations in Vector Space," *arXiv*, 1301.3781.

Mikolov, T, S. W. Yih & G. Zweig, 2013b, "Linguistic regularities in continuous space word representation," *Proceedings of the North American Chapter of the Association for Computational Linguistics: Human Language Technologies*, 746-51.

見田宗介，1967,『近代日本の心情の歴史：流行歌の社会心理史』講談社.

小田中悠・中井豊，2019,「意味世界の計算社会科学的分析に向けて：社会学におけるトピックモデルの意義の検討」『理論と方法』34(2): 280-95.

Peatman, J. G., 1944, "Radio and Popular Music." P. F. Lazarsfeld & F. N. Stanton eds., *Radio Research 1942-1943,* New York: Duell, Salon and Pearce, 335-93.

左古輝人，2015,「ヒットソング歌詞の変遷 ：1968 年から 2013 年まで」『人文学報』497: 49-85.

瀧川裕貴，2018,「社会学との関係から見た計算社会科学の現状と課題」『理論と方法』33(1): 132-48.

（（おだなか ゆう　東京大学大学院情報学環）
（たに こうた　慶應義塾大学大学院社会学研究科）
（よしかわ ゆうき　立教大学社会学部）